

秩父市シルバー人材センター 通信シルバー秩父

令和4年7月号

令和4年6月末
会員数 691

定時総会の開催

去る6月23日(木) 令和4年度定時総会が福祉女性会館において開催されました。

今年度の総会開催にあたっては、昨年同様「新型コロナウイルスの感染拡大防止」という観点から、会員の皆様に対しまして、書面による議決権行使及び委任状での対応をお願いし、



出席者(理事・監事等) 14名、

書面評決及び委任549名、合計561

名により総会が成立しました。報告事項は5件で、決議事項3

件が承認されました。会員の皆様のご協力ありがとうございました。

また、新しい理事・監事に次の方々が選任されました。任期は令和6年度定時総会終結時までとなります。(敬称略)

理事

北堀 篤(理事長)

清川 秀幸(副理事長)

新井 昭彦(専務理事)

森前 光弘 小池 光夫

若林 睦子 吉澤はつみ

鈴木 忠夫 根岸 康雄

監事

岡本 清 江田 幸雄

おめでとうメッセージ

表彰については、当日手渡すことができませんでしたが、表彰者は次の方々です。(敬称略)

役員表彰

中谷 亨

会員20年表彰

杉田己藏 小林 清 大島美春
大野美智子 安達眞佐美
坂本津智代 黒澤平三郎

会員10年表彰

島崎虎雄 新井富治 鈴木清一
山中秀男 浅見峰久 萩原 仁
原島健二 上林清美 江田幸雄
浅見信一 新船豊美 柴崎勇太郎
富田広行 坂本千代 原嶋民夫
時任善美 柴崎政夫 相沢秀樹
桜井賢二

職員20年表彰

坂本 新

新会員紹介

五月入会者 4名
六月入会者 6名

中期基本計画

5月号に引き続き中期計画について説明します。

会員の増強

センター運営の基盤となる、会員の増強を図り、特に女性会員の獲得を増やす対策を行うていきます。

(1) 会員数

人口減少、高齢化率の上昇がある中で、労働力としてのシルバーへの期待がますます高まっています。この期待にこたえるため、センターは会員数の増強

を図り、基盤を拡大していく必要があり、令和3年度末会員数を5年で5%増やすことを目標とします。

取組内容

ア 新規会員の確保

地元ラジオ局を活用し、PRすること等普及啓発事業を行うことでセンターへの入会を促進します。合わせて、チラシ、リーフレットの配布、市報への情報提供を行います。また、新型コロナウイルス感染状況が落ち着いて段階でイベント等を実施し、普及啓発を図ります。秩父市の人口は減少傾向にあり、再雇用制度の影響等、センターの会員数は減少傾向が出るとともに、会員の平均年齢も上がっています。この傾向はしばらく続くと思われ、就業依頼への迅速な対応が困難になり、事業運営に支障をきたすことが危惧されます。このような社会環境の中、労働力としてのシルバーへの期待がますます高まっています。この期待にこたえるため、シルバー人材センターは会員の増強を図って基盤を揺るぎないものにしていくことは重要な課題となります。

イ 女性会員の確保

介護予防・日常生活支援総合事業に関する就業の受注により、特に女性向けの職種拡大を図る。女性のネットワークを活用した普及啓発活動を実施します。

市内在住で会員の対象となる女性の割合は約55%となっており、ですが、女性会員の割合は約33%と低い状況となっております。センターの活性化のために、女性向け事業の充実や、新規事業の開拓、入会促進活動等を推進していきます。

ウ 退会の抑制

ローテーション就業やワークシェアリングの徹底により、未就業会員の対策を強化します。センターの基本理念に、健康で生きがいのある生活を送る手段を提供していきます。

定年延長等により、会員の平均年齢が上昇傾向にあり、会員の退会理由で一番多いのは、健康上の問題となっております。体力や健康維持に役立つ事業として、平成31年1月に立ち上げたフレイル予防教室の充実を図り、会員の健康度をアップし、会員が活動できる期間を少しでも長くしていきます。教室への参加希望者は事務所までお問合せください。

ださい。

また、独自事業（小物作成等）業務を希望する会員をイベント等の参加を促し、活動を後押しすることにより退会抑制を図ります。

親睦会

グラウンドゴルフ

期 日 7月31日(日)
会 場 別所運動公園
受 付 午前8時30分
競技開始 午前9時
会費 500円
申込 事務局

申込締切 7月26日(火)

※小雨決行 雨天中止

※参加賞・お茶付き・各賞あり

※親睦会では貸しクラブを用意しておりますので、初めての方もこの機会に始めてみませんか。初心者の方歓迎です。多数の方の参加をお待ちしています。



熱中症を防ぎましょう

今年は、6月の段階ですでに気温が40度近くに上昇しています。熱中症患者のおよそ半数は65歳以上の高齢者と言われています。高齢者は暑さやからだの調整機能も低下しているため、注意が必要です。熱中症を防ぎ、会員皆さんの健康管理のため、適正な対策を実施しましょう。

参考(対策例)

暑さを避ける、身を守る

- 室内では
 - ・扇風機やエアコンで温度を調節
 - ・遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用
- 屋外では
 - ・室温をこまめに確認
 - ・日傘や防止の着用
 - ・日陰の利用、こまめな休憩
 - ・天気の良い日は、日中の外出をできるだけ控える。
- からだの蓄熱を避けるために
 - ・通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用する。
 - ・保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす。



こまめに水分を補給する

屋内でも、屋外でも、のどの渇きを感じなくてもこまめに水分・塩分、スポーツドリンクなどを補給する。

マスクの着用により、熱中症のリスクが高まります。

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなったり、気づかないうちに脱水になるなど体温調節がしづらくなってしまう。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」とマスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。

また、体調に応じて、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合にはマスクを外すようにしましょう。さらに、熱中症が疑われる人を見かけたら、エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など涼しい場所へ避難させましょう。衣服を緩め、からだを冷やす（特に首回り、脇の下、足の付け根など）の対応もお願いします。

自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう。（厚生労働省資料参照）

※定時総会案内に同封したリーフレットも参考にしてください。